

FANTIC

RACING

ファンティック・レーシング・ニュース
2024年4月23日

FANTIC・MOTO2 レースチームマネージャー、 ロベルト＝ロカテリ・インタビュー



2000年の125ccクラス・世界チャンピオンであるロベルト＝ロカテリは、自身がGPライダーであった豊かな経験を活かし、現在ではファンティック・レーシングのチームマネージャー&アドバイザーとしてチャンピオンシップを戦っています。2024年第3戦アメリカズGPを終え、そのインサイダーとしての現況をインタビューしました。

「ポルトガルGPで表彰台の頂点に立った時の気分と言ったら、まるで月面を歩いているくらいふわふわした感じだったよ！」-チームマネージャーとしての初勝利をアーロン＝カネットの活躍で味わった興奮をロカテリは語りました。

2024シーズンの第3戦を迎え、チームはアメリカ、テキサスにたどり着きました。そう、カウボーイとロデオの町であり、冒険と発見の町でもあるテキサスは、また月面に最も近い街でもあり、宇宙空間に飛び出す感覚を味わえるという意味でも貴重な街でもあります。チームは、最初のイタリアン・アストロノウツ（宇宙飛行士）でもあるルカ＝パルミターノがかつて6時間7分もの宇宙遊泳を楽しんだ経験を、そのテキサス州はヒューストンにあるスペース・センターで自ら案内するという貴重な体験を得た機会でもありました。

「あの有名な『ヒューストン、問題が生じた』というフレーズを発したその人にこの歴史的な場所を案内してもらえとは思いませんでしたよ」とロカテリは語りました。「実際に体験した本人であるルカ＝パルミターノだからこそ話せる宇宙の感覚を聞きながらのガイドツアーは本当に貴重な体験だったよ。彼の体験を聞きながら、僕たちは文字通り口を開けたままその文字通りアメイジングな時を過ごすことができたんだ。まったく、子供たちが夢に見ていたことを初めて体験する瞬間のような気分だった。素晴らしい経験だったし、文字通り月面を歩くってのはこういう感じなんだ、と思ったよ」

『オースティン、月面に降り立った。』

ファンティック・レーシングのミッションは、記念碑的なサーキットでもある「サーキット・オブ・アメリカズ」で続くことになる。「僕らは宇宙に触れた後で、地上に降りたってオースティンでのGPを走らせることになったわけだ」とロカテリは続けました。この週末、アーロン＝カネットによる2度目のポール・ポジション獲得から始まり、チームのムードは最高潮にありました。

「ファンティック・レーシングのメンバー全員としては、ポールを獲得するために完璧な仕事をすることができたんだ。予選では最高のパフォーマンスを発揮することができて、レースではそれ以上の結果を出せる期待に満ちていた。すべてのGPラウンドと同様に、やるべきことをこなし、地に足をつけて知り尽くした仕事をこなしければ結果は見えてくる、そんな状態だったんだ。でも、まさかあんなにひどいスタートとなってしまう、予想をはるかに超えるポジションダウンを食らうことになるとは思ってもいなかったよ。テキサスでのポール・ポジションは1コーナーに対して外側からのアプローチで、その1コーナーは一味違うアングルの、結構シャープなターンになっている。コーナー外側はワイドになるデザインのコースだから、多くのライダーが一気にインサイドに向かって殺到するのがスタートなんだ。わずかにスタートに失敗しただけでも、インサイドに殺到するライダーに押しのけられてしまい、カネットはワイドすぎるラインを通ら

ざるを得なくなりました。結果として1コーナーを抜けた時点ですでに10番手と大きく出遅れて、そこからのひたすら上を目指して走り続けるバトルの展開になってしまった」

「でもまだまだ僕らはポジティブだ。アメリカズGPを9位で終えたけど、これは逆にいえばアーロン=カネットなら続く彼にとってのホームGP、すなわちスペインGPでは望むものが得られるだけの力があるということだからね。これはまさに僕ら自身が自分に対して、シーズンオフの間中、言い聞かせてきたことなんだ。勝つことだけが目的ではなく、でも勝つためにここにいる。今回得たものは、チャンピオンシップを戦う上で貴重なポイントを得られたということだ。シーズン前半のポイント争いが激しい中で、これは非常に重要なことだ。今、ランキング4位のアーロンと僕らはゴールに向けて十分戦える状態といえるだろう。そう、24年シーズンを通じて、表彰台県内で戦い続けるという狙いに向けて」

ユニークなサーキット、コタ

ザビ=カルデラスにとってのアメリカズGPは、このむづかしいコースで何とか走り続けるのがやっとという状態だったとあっていいでしょう。「ザビは初めてのオースティンで、おまけにケガからの回復も十分ではなく、この難しいコースをどう攻めるかまでもたどり着けないままに終わってしまったね。一方で、1周当たり20ものコーナーが迫りくるこの個性的でライダーを苦しめるサーキットを経験することができたのは悪いことじゃないはずだ。ザビは何とかここを走り切ることができて、大いなる経験も得られたはずだし、何よりもここでの経験やデータをヨーロッパに持ち帰ることができるというのも重要なんだ。カザフスタンGPまでの間、これまでの歴史を刻んできたヨーロッパのサーキットでの転戦が続くわけで、この間は我々の経験が生きることには自信を持っているし、カルデラスにとってもその経験が生きてくるはずだ」

スペインGPは4月26日から28日まで、コンチネンタル・サーカスのヨーロピアン・ツアーの皮切りとして開催されます。スペイン人のアーロン=カネットにとっては、次戦のサーキットであるヘレスは文字通りホームGPとなるわけです。「アーロンとスペインに向かうことは、僕らにとって向かうべきところをさらに明確にする一歩となることでもある。何よりも重要なのは、僕らにとってだけではなく、MotoGP/Moto2のパドック内で、アーロン=カネットはトップライダーの一員である、と認められていることでもある。ヘレスでの結果に期待してほしい。これこそが我々の仕事であり、目標でもあるからね」とロカテリは締めくくりました。

